

びわこ文化公園植物だより〔β 版〕

モミジバスズカケノキ スズカケノキ科

学名 *Platanus* × *acerifolia*



すずかけの道のプラタナス

今年の梅雨明け後、気温が高い状態が続き、文化公園内をゆっくりと散歩するのも難しくなりました。早朝と夕方以外は、行き交う人も限られ、植物の観察どころではありません。屋外では木陰で休みながら、木々を抜ける風の爽やかさを楽しみたいものです。

北駐車場から管理事務所や図書館に至る小径は、「すずかけの道」と名付けられています。この道沿いに植えられているのはモミジバスズカケノキで、樹高15m 程度の高さで枝を広げ道路を覆っており、公園内に木陰を提供してくれています。

原稿を書くために取材に訪れた 7 月下旬は連日 38℃程度の高温が続き、取材当日も 38℃に迫る気温でしたが、汗を拭いながら木陰で休憩すると、「すずかけの道」を吹き抜ける風が心地よく、汗が引いて涼しさを感じました。この涼しさの直接の原因は、冷気が身体に触れて涼しさを感じるのでは無く、体表面から汗が蒸発するときに蒸発に伴って発生する気化熱(蒸発潜熱)が体表面から奪われるため、体表面の温度が下がるために涼しさを感じます。夏の暑い日に、打ち水をしますが、打ち水された水が蒸発するときに周囲の熱を奪って周囲の気温を下げ、涼しくさせます。原理は同じです。直射日光を遮って影になるだけなら木陰で無く建物の陰でも良いのですが、実際には木陰の方が涼しく感じます。街路樹で覆われた木陰では、実際に建物の影よりも涼しいです。それは、植物が「蒸散」

をしているからです。液体の水が気体になって空気中に拡散するのは蒸発ですが、地中の水が根から葉を通じて水蒸気として空気中に放出されるのを蒸散と呼びます。蒸発と蒸散をまとめて、地面から空気中に水分が放出される現象を蒸発散といいます。蒸散の際も、蒸発の際に周囲の熱が気化熱として奪われるため、植物体周辺は冷やされます。植物が多く生育している場所では、蒸散によって周囲よりも気温が低くなるのです。そのため、単なる日陰よりも植物の木陰の方が涼しくなります。ちなみに、植物が地面から吸い上げる水の95%以上は蒸散のために用いられており、光合成（太陽の光エネルギーと水と二酸化炭素から炭水化物を合成する営み）に用いられる水はごく僅かです。こうして大量の水を植物は消費するので、植物周辺は気温が周囲よりも低下し、涼しく感じます。すずかけの道はそうした植物が木陰を作っているのです、やはり涼しく感じます。

さて、植物の話に戻りましょう。すずかけの道沿いに植えられているのは、モミジバスズカケノキです。プラタナスという属名で呼ばれることが多いので、プラタ

ナスといった方が分かりやすいかも知れません。スズカケノキ科の植物は東南ヨーロッパからインド、北米からメキシコにかけて分布する植物で、アジアには自生しない植物ですが、公害に耐え、刈り込みに強く、生育も早いとため、世界の温帯各地に広く街路樹として植えられている植物です。属名 *Platanus* はギリシャ語の”広い”を意味する *platys* に由来します。葉の広さから名付けられたと想像しますが、植栽によって名前の通り”広く”分布する植物になりました。日本には、明治時代にスズカケノキ、モミジバスズカケノキ、アメリカスズカケノキの 3 種類が植栽されたようですが、最も普通の街路樹として広く植えられたのがモミジバスズカケノキです。西アジア原産のスズカケノキと北アメリカ原産のアメリカスズカケノキの交雑種で、イギリスで育成され、日本に持ち込まれました。日本でプラタナスといえば、モミジバスズカケノキを指すことが多いです。高さ 20m 以上に成長し、淡灰褐色から灰緑色の樹皮が大きく不規則な薄片になって剥げ落ち、淡緑白色の跡が残るので、鹿の子まだら模様の幹になります。



モミジバスズカケノキの幹。樹皮が剥がれて鹿の子模様になる。

葉は長さと同幅が同じ程度かやや幅が広く、大きさは20cm程度。浅く掌状に裂けます。花は5月頃に球状花序を付けるようですが、高い枝先に付く1cm程度の球状なので、なかなか気付きません。夏を終える頃には集合果が直径4cm程度に大きく成熟し、探しやすくなります。冬になり落葉すると、枝先に集合果が多

数ぶら下がる様子が目立つようになり、多数ぶら下がる鈴のような果実が山伏の法衣の上から身につけるスズカケに似ていることから、スズカケノキと呼ばれたきっかけです。



スズカケノキの葉と集合果の様子

今の季節、名前の由来となった集合果を見つけるのは少し難しいかも知れません。でも、木陰で一息つきながら頭上を見上げて探してみるのはいかがでしょう？夏の暑さの最中に冬の風景を想像するのも楽しいものです。

(参考文献)

- 1) 北村四郎・村田源「原色日本植物図鑑 木本編 II」(保育社, 1979年)

【関連 URL】

米倉浩司・梶田忠 (2003-) 「BG Plants 和名-学名インデックス」(YList), <http://ylist.info> (2023年7月31日)

(龍谷大学先端理工学部環境生態工学課程
横田岳人)